

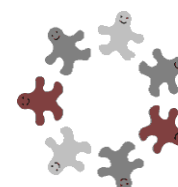


NPO 法人 日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing

— JSPON —

News Letter Vol.35



日本小児がん看護学会のニュースレターを発行いたします。学会からの様々なお知らせがありますので、ご一読下さい。よろしくお願いいたします。

第23回日本小児がん看護学会学術集会の報告

2025年11月19～21日の3日間、福岡国際会議場にて開催した本学術集会は例年同様、日本小児血液・がん学会およびがんの子どもを守る会と3団体合同にて行われました。最終日の参加登録者数は、計2,088名(うち、看護師354名)と、平日開催にもかかわらず大変多くの方にお越しいただきました。一般演題は64演題(口演45、ポスター19)と、多種多様な発表をいただき、活発な意見交換がなされておりました。また、本学会委員会企画やシンポジウムにより、専門職や当事者それぞれの目線から多彩で広域な視点による知の共有がなされ、子どもや家族や医療者を守り支えていくための議論がなされました。企画や運営のなかで、至らぬ点も多々あったことと思いますが、一人でも多くの参加者が今回の学術集会のなかで課題や気づきを得て、臨床や教育などそれぞれの場で活かし、次のエビデンスの発展につながることを願っております。今回の学術集会を開催するにあたり、大変多くの方々からご支援・ご協力をいただき、また温かいお言葉を頂戴することができ、感無量です。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

第23回日本小児がん看護学会学術集会長
植木慎悟
九州大学大学院医学研究院保健学部門

第22回日本小児がん看護学会学術集会の報告

第22回日本小児がん看護学会学術集会を、“Always with You～がんの子どもに寄り添う臨床と研究”をテーマに2024年12月13～15日京都国際会議場で開催しました。478名の看護師の方に参加いただき、会場のあちこちで小児がん看護に関する熱い議論が行われていました。また、今回初めての試みとして、小児がん看護のエビデンスについて意見交換する“リサーチ・カフェ”を開きました。今回の学術集会での成果が、今後の小児がん看護の発展につながることを願っています。

最後になりました、学術集会の開催にあたり、本当に多くの方々から多大なお力添えを頂きましたことに、この場をお借りしまして、心からお礼を申し上げます。

第22回日本小児がん看護学会学術集会長
松岡真里
三重大学大学院医学系研究科看護学専攻
生涯発達看護学講座 小児看護学分野

第24回日本小児がん看護学会学術集会のご案内

第24回日本小児がん看護学会学術集会を2026年11月12日(木)～14日(土)、パシフィコ横浜ノースにて開催いたします。

今回のメインテーマは、3団体共通の「みんなで治す、みんなで支える ～Cure Together, Support Together～」です。

小児がんの治療成績は向上してきましたが、難治例や晚期合併症など、依然として多くの課題が残されています。私たち看護職には、こどもの「生活」や「成長」に寄り添いながら、「治す」過程を支えると同時に、治療中もこどもが「その子らしく」過ごせるよう、病院内にとどまらず、学校・地域、保育・教育など多様な専門職と連携しながら「支える」役割が求められています。

特別講演には、伊藤亜紗(いとう・あさ)先生をお迎えする予定です。伊藤先生は美学・現代思想を専門とし、東京工業大学(現・東京科学大学)リベラルアーツ研究教育院 教授としてご活躍されています。「弱さ」「ケア」「身体」「生きづらさ」といったテーマを、哲学・芸術・日常生活の視点から問い直してこられました。特別講演では、看護実践に新たな視点をもたらすお話を伺えるものと期待しています。

現在、小児専門看護師や小児がん看護を専門とする研究者の皆様とともに、シンポジウム等のプログラムを検討中です。臨床で培われた実践的な知恵と、研究によって生み出された知見が活発に交流し、明日からのケアの質をさらに高めるためのヒントが得られる場となることを目指しています。演題募集は、2026年4月～5月を予定しております。詳細が決まり次第、学術集会ホームページおよび学会メーリングリスト等にてご案内いたします。

多くの皆様からの演題応募、ご参加を心よりお待ちしております。

第24回日本小児がん看護学会学術集会長
小川純子
淑徳大学看護栄養学部



【開催概要】

会期：2026年11月12日(木)～14日(土)
会場：パシフィコ横浜ノース
テーマ：みんなで治す、みんなで支える
～Cure Together, Support Together～
看護プログラム：11月13日(金)・14日(土)(予定)
演題募集期間：2026年4月～5月(予定)

★学術推進委員会企画セミナー報告★

第 23 回日本小児がん看護学会にて、学術推進委員会企画 看護ワークショップ 第 2 弾！～リサーチカフェ投票結果 【看護の声 TOP10】について考えよう～ Let's share our voices with other nurses.～Come to the Research Cafe! Part II ～を開催いたしました。

第 22 回日本小児がん看護学会のリサーチカフェであげられた“日ごろのもやもや”17 項目の中から TOP10 について 5 つのテーマ（①こどもにどう伝えるか ②AYA 世代への関わり ③エンドオブライフケア ④ルール ⑤看護教育看護体制・診療報酬への期待）をワールドカフェ形式で話し合いました。40 名の方に参加して頂き研究の方向性としても意見がでました。皆様の意見を参考に研究にすすめられるよう検討したいと思います。ご参加頂きありがとうございました。

学術推進委員会委員長
河俣あゆみ

★ケア検討委員会★

第 23 回日本小児がん看護学会にて、ケア検討委員会企画ワークショップ「こども・家族中心ケア～今、あらためて、日々のかかわりを振り返ろう～」を開催しました。まず 2 名の小児看護専門看護師より話題提供があり、その後グループワークにて、参加者の皆さんと一緒に日々のかかわりなどを振り返り、意見交換を行いました。グループワークでは、こども・家族中心ケアの視点で考え大切にしていること、難しさや取り組み、実践の中で工夫していることなど、活発な話し合いとなり、参加者で共有することができました。「小児がん看護ケアガイドライン 2018（2019 年 3 月改訂）」を発刊し、6 年が経過しています。ガイドライン改訂に向けても、本ワークショップの内容をつなげて、検討を行っていきたいと思っています。ご参加いただきありがとうございました。

ケア検討委員会委員長
有田直子

★教育委員会企画教育セミナーの報告

第 23 回小児がん看護学会学術集会において、「今さら聞けない小児がんのこどものアピアランスケア」をテーマに教育委員会企画教育セミナーを開催し、現地では約 180 名の方にご参加いただきました。

国立がん研究センター中央病院アピアランス支援センター長の藤間勝子先生より外見変化がもたらす心理社会的影響やこどもの発達段階や価値観に合わせたアピアランスケアなどについてご講演いただき、小児がんのこどものアピアランスケアの知見を深めることができました。アンケートでは、〈アピアランスケアが見ただけのケアでないと知れた〉〈アピアランスケアの具体的方法や言葉かけがわかり実践しやすいと感じた〉などの意見が得られました。治療による外見変化へのケアは、外見への支援だけではなく、認知の変容や対人関係の対処への支援も含むものであることが理解でき、臨床現場ですぐに活かせる小児がんのこどもたちへのケアを学ぶ機会となりました。

教育委員会委員
栗林佑季



★研修制度委員会 交流集会報告★

昨年、福岡で開催された第 23 回日本小児がん看護学会学術集会の会期中に、小児がん看護研修の修了者や e-ラーニング受講修了者を対象に、交流集会を開催いたしました。今回の交流集会は、自施設での課題や取り組みを共有し、研修修了者が臨床現場で活動していけるよう、グループワークで行いました。参加された方が、自施設での活動状況や現在の取り組み、困っていることや悩みについて、直接に意見交換することで、“語りの場”となりました。

小児がん看護研修修了者として、自分自身が置かれている状況の中で今できることを実践している姿は、小児がん看護の可能性を感じられる機会となりました。

研修制度委員会委員長
田村恵美

★令和 7 年度 研究奨励賞受賞者のお知らせ★

令和 7 年度は「小児がん看護」19 号に掲載の論文の中から、原著論文「思春期がん患者への予後に関する対話における看護実践のプロセス」、著者は高嶋希世子さんが受賞されました。(Vol.19(1)2024.pp18-27)

第 23 回学術集会（2025 年 11 月 20 日）に授与式が行われ、松岡真里理事長より授与されました。おめでとうございます。

学術推進委員会委員長
河俣あゆみ

★小児がん看護研修制度について★

2024 年 6 月に新たに再スタートした小児がん看護研修制度は、e-ラーニングである【基礎コース】、【上級コース】と、集合研修である【実践コース】の 3 段階のコースで構成されています。e-ラーニングは、看護職に限らず、非会員でも受講可能とし、随時受講申込を受付けています。e-ラーニングを修了した看護師かつ学会員を受講要件とする【実践コース】は、講義およびグループディスカッションを通して、小児がんのトータルケアを実践する力を養うことを目指します。

お問い合わせやご意見などは、小児がん看護研修制度事務局にメールにてお寄せください。

小児がん看護研修制度公式サイト

<https://www.jspon.com/learning/>

小児がん看護研修制度事務局メールアドレス

jspon.lms@gmail.com



研修制度委員会委員長
田村恵美

◆第 21 回小児がん看護実践セミナー報告◆

2025 年 8 月 23 日(土) 京都にて、「予期せぬ知らせ、こどもにどう伝える?」というテーマで小児がん看護実践セミナーを開催しました。このテーマは昨年の小児がん看護学会学術集会のリサーチカフェ企画「今、わたしたちが取り組むべき課題」で上位に挙がり、現地とオンライン総勢 76 名の方にご参加頂きました。

講師の京都府立医科大学病院小児看護専門看護師の竹之内直子さんからは「こどもにとってのバッドニュース～こどもは何をどう知りたいのか、知りたくないのか～」と題し、海外や最新の知見も踏まえたお話を、大阪母子医療センターがん看護専門看護師の中長容子さんからは「病院で出会うこどもの姿～事例を通して考える～」と題し、具体的な実践からのお話を伺いました。

現地開催のグループワークでは、参加者の経験や悩みを基に、こどもの気持ちをどのように尊重し支援していくか、親や医療者も様々な感情を抱く中、どのように対話をしていくか、語り合い、学びを深めました。

教育委員会委員
熊谷祐美



◆SIOP 2025 に参加して◆

2025 年 10 月 20 日から 23 日にオランダのアムステルダムで開催された、国際小児がん学会(SIOP 2025)に参加して参りました。日本からは 68 人が参加登録されていたとのことで、会場では日本の皆さんの研究発表を見かける機会も多くありました。看護からは 12 名ほどが現地参加されている様子でした。今回、e ポスターでの採用だったため、現地で直接発表やディスカッションすることはできませんでしたが、2024 年に横浜で開催された SIOP Asia でお会いした看護師と再会でき、現地参加できたからこそその交流の時間をもつことができました。

看護のプログラムでは、家族の心理社会的影響と支援ニーズ、サバイバーシップ、新薬治療へのアクセスとケア、小児緩和ケアの質向上、症状マネジメント、国際的なケアの質向上などについて取り上げられていました。学会中に共有された SIOP の Nursing の歴史のなかでは、日本小児がん看護学会で初代理事長を務められた梶山祥子先生が多大な国際的な貢献をされていることが紹介されており、現在の本学会の礎を国際的な視点からも知る貴重な機会となりました。また、SIOP Euro で開発された、visual language を用いてこどもへの説明を行う POLARIS project について、会場入り口や Exhibition 等で紹介されていました。神経芽腫を再発したこどもの家族に向けたサイト Redmapp など、様々な有用なツールについて情報を得ることができました。

今回のオランダ訪問に合わせて、学会を主催くださっていたオランダのプリンセスマキシマセンターや、オランダ国内のこどもホスピス Kinderhospice ZonNaCare に訪れることもできました。現地の方が社会制度の課題やケアの課題をとらえながらその克服に向けて研究や地域での連携を深めておられることを知り、とても勇気づけられるとともに、気持ち引き締められました。

国際交流委員会
入江 亘
岡田弘美



会場で展示されていた、プリンセスマキシマセンターで採用されている輸液ポンプと一体になっている三輪車。こどもの生活と安全の両立を図る設計と実装に目を奪われました。



【学会誌のオンライン化・投稿制度変更のお知らせ】

本学会誌は 20 巻をもって冊子体での発行を終了し、今後は **J-STAGE** を利用したオンラインジャーナルとして公開いたします（公開後 1 年間は会員限定閲覧）。あわせて投稿規程を見直し、投稿時の会員資格は筆頭著者のみにいたしました。さらに、これまでの紙による投稿に代わり、2月2日よりオンライン投稿システムの運用を開始しました。会員の皆様の日々の実践や研究が、より投稿しやすくなり、その成果がこどもと家族に広く届けられることを願っております。

編集委員委員長
新家一輝



【研究助成】

令和 7 年度日本小児がん看護学会研究助成制度につきまして、梅津理子さん（九州がんセンター）を助成対象と決定いたしました。

研究題目は「小児から AYA 世代において同種移植を受けた患者・家族に対する LTFU 外来調査 ～介入内容の検討～」です。成果の創出・発信をよろしくお願いいたします。

学術推進委員会委員長
河俣あゆみ

【新役員組織紹介】

本学会では、2025 年 6 月より 2027 年 5 月までを任期とする新たな理事体制がスタートいたしました。新理事一同、これまで学会を支えてこられた多くの方々の歩みを大切にしながら、会員の皆さまにとって有益な学会運営を通してこどもたちに貢献していきたいと考えております。今後とも、温かいご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

学会ホームページには、各委員会のメンバー、ミッションを掲載しておりますので、是非ご覧ください。

<https://www.jspon.com/>

理事長	松岡 真里
副理事長/研修制度委員	富岡 晶子
副理事長/会計/研修制度委員	永吉 美智枝
理事/ケア検討委員会委員長	有田 直子
理事/国際交流委員会委員長	入江 亘
理事/学術推進委員会委員長	河俣 あゆみ
理事/広報委員会委員長	佐藤 伊織
理事/研修制度委員会委員長	田村 恵美
理事/庶務	南部 美智子
理事/編集委員会委員長	新家 一輝
理事/教育委員会委員長	古橋 知子
監事	浅野 みどり
監事	渡邊 輝子

会費納入のお願い

日本小児がん看護学会年会費を納入いただいた皆様、誠にありがとうございました。4 月に 2026 年 4 月～2027 年 3 月の年会費振込書を発送いたしますので、お振込をお願いいたします。

早い時期の納入にご協力をお願いいたします。

〔会費振込み先〕

郵便振替口座:00590 9 79689

名称:特定非営利活動法人日本小児がん看護学会

日本小児がん看護学会

理事長

松岡真里

広報委員会（ニュースレター担当）

東京科学大学大学院保健衛生学研究科	佐藤伊織
東京大学医学部附属病院小児科	大瀧優子
東京医療保健大学千葉看護学部	勝本祥子
長野県看護大学	竹内幸江

〔連絡先〕 E-mail: pr@jspon.com

